



TITLE:

世界貿易概観 (特別號)

AUTHOR(S):

小島, 昌太郎

CITATION:

小島, 昌太郎. 世界貿易概観 (特別號). 經濟論叢 1921, 12(1): 127-153

ISSUE DATE:

1921-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127737>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第一號

第二十卷

論說

地租に於ける特別税對附加税……………法學博士 神戸 正雄

歴史の本領……………法學博士 財部 靜治

ヘンリー・ジョージの土地國有論……………法學博士 河田 嗣郎

獨逸税制の發達を論ず……………法學博士 小川 郷太郎

時論

米價安定と常平倉……………法學博士 戸田 海市

說苑

日本經濟史研究の必要と困難……………法學士 本庄 榮治郎

世界貿易概觀……………法學士 小島 昌太郎

京都市小學校教員生計調査……………法學士 沙見 三郎

正常需要供給の動的考察と時の要素……………法學士 石川 興二

特 別 號

世界貿易概観

小島 昌 太 郎

世界に於ける貨物交通の有様が、今日如何なる現狀にあり、又如何なる發達傾向にあるかを知らるは、交通現象を研究するに就いて第一に必要な事柄である。而して之に就いては、世界貿易の一般的狀態や、各國相互の貿易關係や、主要貨物の移動狀態等を、金額の上よりと數量の上よりとの二方面より研究せねばならぬ。

私は本論に於いては、右の中、世界貿易の一般的狀態を金額の上より概観しようと思ふ。數量上の調査は、或意味に於いては、金額上の調査よりも重要なのであるが、之は貨物の種類に従つて觀察をなす場合には、物によりては稍々正確に行ひ得るが、一國全體の貿易、若しくは世界全體の貿易を總ての種類の貨物を包括して概観せんとする場合には、殆ど之を行ふことが出來ない。その譯は、貿易統計表の上には、國によりて、數量上の計數を掲載せざるものあり、又縦ひ之を掲載するも、或る貨物は容積を以て表示せられ、他の貨物は重量を以て表示せられて居るから、數量の上より、一國が幾何の貿易を營み居るか、又は世界に幾何の貿易が行はれ居るかを見るには、容積又は重量の何れかの單位に換算せねばならぬのであるが、この容積を重量に若しくは

重量を容積に換算することは、近似的なる結果を得ることさへ殆ど不可能なる場合があるからである。勿論、金額による調査も、嚴密に言へば、必ずしも正確なる結果を得らるべきものではない。貨幣購買力の變動即ち物價の變動や、爲替換算率の變動や、貨幣名目の相違やが、諸國の間に交易せられたる貨物の實質的貨幣價值の調査を不正確ならしむるからである。併しながら、貨幣上の換算は、容積と重量との間に於ける換算に比ぶれば、不正確を免れ得る度合に於いて大に優れたる所がある。故に、物價の變動を考慮に入れて觀察するときは、金額を以て表示せられたる貿易統計は、世界の貨物交通の狀態を、概略ながら知ることを得しむるのである。

二

世界貿易の總額を調査することは、嚴密に言へば殆んど不可能である。貿易關係を有する總ての國、總ての植民地、總ての地方を遺漏なく擧げ得ても、その悉くの貿易統計を聚集することは出来ない。又統計表上に表はされたる金額なるものも、此種統計の常として、必ずしも之を正確なるものと見ることは出来ない。故にかゝる調査は、決して正確を望むにあらずして、出來得る限り正確ならんことを期しながら、近似的なる結果を得ることを以て満足するの外はない。私は茲に伊太利、英吉利、印度、露西亞、日本、新爾蘭、ボリヴィア、葡萄牙、北米合衆國、秘露、白耳義、波斯、獨逸、土耳其、智利、ルトマニア、加奈陀、南亞聯邦、蘭領東印度、諾威、奧地利、洪牙利、濠太利、和蘭、ブルガリア、佛蘭西、伯刺西爾、埃及、丁抹、アルゼリア、亞爾然丁

希臘、墨西哥、支那、暹羅、比律賓、モロッコ、瑞西、瑞典、西班牙の二十九ヶ國に就いて一九〇〇年以來の貿易金額を調査し、以て世界貿易の一般的狀態を調査しようと思ふ。

先づ此等諸國の貿易金額と、その發達の趨勢を表はす指數とを、國別に示せば次の如くである。

この統計表は「政家年鑑」(Statesman's Year Book)より、各該年度記載の分を彙集して作成したのであるが、該年鑑には多く英貨磅 (pound sterling) を以て記載してあるから、茲に之を彙集するに當つても、便宜の爲め磅を以て表示することとした。但し、該年鑑には國により、又年により磅を以て表示せずして、本國貨幣を以て表示したものもあるから、此等は茲に掲ぐるに當り、總て平價を以て磅に換算して統一することとした。即ち印度(英領)は一五ルーピー (rupee) を一磅、露西亞は一〇ルーブル (rouble) を一磅、ボリヴィアは一・五ボリヴィアノ (boliviano) を一磅、葡萄牙は四・五ミルレー (milreis) を一磅、秘露は一〇ソール (sol) を一磅、波斯は五〇クラン (kran) を一磅、北米合衆國及び加奈陀は四・八六五弗 (dollar) を一磅、土耳其は一リラ (lira) を一〇磅、智利は一ペソ (peso) を一八片、ルーマニアは二五・二五リウ (lei) を一磅、諸威及び丁抹は一八クロネ (krona) を一磅、和蘭及び蘭領東印度は一ニギルダー (guilder) を一磅、ブルガリアは一五レヴァ (leva) を一磅、佛西、瑞西及びアルゼリアは二五・二五法 (franc) を一磅、希臘は二五ドラクマイ (drachma) を一磅、墨西哥は一ペソ (peso) を一磅、支那は七・五海關兩を一磅、瑞典は一八クロノール (kronor) を一磅、西班牙は二五・二五ペセタ (peseta) を一磅として夫々之を換算したのである。但し我日本のみは帝國統計年鑑により、且つ九・七六三・一七圓を一磅とした。而して一九〇〇年(明治三十三年)を基礎として、各年の指數を算出したのは、同年は一段階を劃する年でもあり、又物價指數は同年十月の物價を本として算出せられて居るから、かたゞ比較の便宜を慮つたからである。又一九一三年の統計を引用したのは、同年は大戦の前年であつて、戦前戦後の比較をなすに必要だからである。

主要諸國對外貿易表 (いろは順)

(一) 伊太利 (Italy)

[illegible]

(三) 印度 (British India)

年次	輸入		輸出		合計
	金額 千兩	指數	金額 千兩	指數	
1800—01	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1801—02	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1802—03	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1803—04	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1804—05	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1805—06	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1806—07	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1807—08	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1808—09	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1809—10	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1810—11	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1811—12	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1812—13	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1813—14	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1814—15	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1815—16	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1816—17	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1817—18	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1818—19	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1819—20	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400
1820—21	2,747,400	100	2,022,000	100	4,769,400

(四) 露西亞 (Russia)

[illegible]

1) 推定額

2) 一九一四年八月開戰當時より一九一七年上半期に至る期間内は英政府並びに聯合側政府に屬する貨物の或種のものは輸出入統計に計上せられ居らず。

3) 三月三十一日に至る一ケ年間

(四) 土耳其 (Turkey)

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	?	?	?
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

說苑 世界貿易概觀

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

年次	輸入 金額指數	輸出 金額指數	合計 金額指數
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100

(五) 南亞聯邦 (Union of South Africa)

7) 三月三十一日に終る一ヶ年間
8) 南亞聯邦の成立は一九一〇年なるが故にそれより前の統計を缺く、従つて指數を算出することが出来ない。

說 苑 世界貿易概観

第十二卷 (第一號) 一三四

一九一三	106,427
一九一五	106,427
一九一六	106,427
一九一七	106,427
一九一八	106,427

〔九蘭領東印度 (Dutch East Indies)〕

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100

〔三 奧地利洪牙利 (Austria-Hungary)〕

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100

〔三 濠太利 (Australia)〕

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100

9) 一九一四年以來貿易統計年度を變更して爾後六月三十日に終る一年間を一期とす

年次	輸入	輸出	合計
一九二七	七、三六八	九、七五五	一七、一二三
一九二六	六、八二三	七、〇〇五	一三、八三八
一九二五 ¹⁰⁾	七、四四三	一〇、八〇四	一八、二四七
一九二四	七、〇〇〇	一〇、七六〇	一七、七六〇

(三) 和 蘭 (Netherlands)

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九〇五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一三	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一六	?	?	?
一九一七	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一九	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇

(二) ブルガリア (Bulgaria)

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九〇五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一三	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一六	?	?	?
一九一七	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一九	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇

(一) 佛 蘭 西 (France)

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九〇五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一三	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一六	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一七	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一八	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一九	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇

(二) 桑伯刺西爾 (Brazil)

年次	輸入	輸出	合計
一九〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九〇五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一〇	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一三	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一五	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一六	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一七	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一八	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇
一九一九	一、四〇〇	一、四〇〇	二、八〇〇

10) 推定額

(二)埃及 (Egypt)

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100

(三)丹麥 (Denmark)

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100
一九一九	100	100	100

(二)アルゼリア (Algeria)

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100
一九一九	100	100	100

(三)アルゼリア (Argentina)

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100
一九一九	100	100	100

一九一三年迄の数は公定價額 (Official value) であるが、一九一五年以後の数は現實價額 (Real value) である。

(三) 希臘 (Greece)

年次	輸入 金額 指數	輸出 金額 指數	合計 金額 指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	104	101	102.5
一九一〇	112	105	108.5
一九一三	130	111	120.5
一九一五	122	111	116.5
一九一六	103	102	102.5
一九一七	106	102	104

(三) 墨西哥 (Mexico)

年次	輸入 金額 指數	輸出 金額 指數	合計 金額 指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇一	101	104	102.5
一九〇二	100	106	103
一九〇三	100	106	103
一九〇四	100	106	103
一九〇五	100	106	103
一九〇六	100	106	103
一九〇七	100	106	103
一九〇八	100	106	103
一九〇九	100	106	103
一九一〇	100	106	103
一九一一	100	106	103
一九一二	100	106	103
一九一三	100	106	103
一九一四	100	106	103
一九一五	100	106	103
一九一六	100	106	103
一九一七	100	106	103

(三) 支那

(三) 暹羅 (Siam)

年次	輸入 金額 指數	輸出 金額 指數	合計 金額 指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100

(三) 菲律賓 (Philippine Islands)

年次	輸入 金額 指數	輸出 金額 指數	合計 金額 指數
一九〇〇	100	100	100
一九〇五	100	100	100
一九一〇	100	100	100
一九一三	100	100	100
一九一五	100	100	100
一九一六	100	100	100
一九一七	100	100	100
一九一八	100	100	100

11) 一九一四年以後一七年に至る期間は内亂の爲め統計發表せられ居らず
12) 三月三十一日に終る一ケ年(?)

說 苑 海外貿易概観

第十二卷 (第一 一三八) 一三八

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	200
一九〇五	100	100	200
一九一〇	100	100	200
一九一三	100	100	200
一九一五	100	100	200
一九一六	100	100	200
一九一七	100	100	200
一九一八	100	100	200
一九一九	100	100	200

(三) モロッコ (Morocco)

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	200
一九〇五	100	100	200
一九一〇	100	100	200
一九一三	100	100	200
一九一五	100	100	200
一九一六	100	100	200
一九一七	100	100	200
一九一八	100	100	200
一九一九	100	100	200

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	200
一九〇五	100	100	200
一九一〇	100	100	200
一九一三	100	100	200
一九一五	100	100	200
一九一六	100	100	200
一九一七	100	100	200
一九一八	100	100	200
一九一九	100	100	200

(三) 瑞 典 (Sweden)

年次	輸入 金額 千磅	輸出 金額 千磅	合計 金額 千磅
一九〇〇	100	100	200
一九〇五	100	100	200
一九一〇	100	100	200
一九一三	100	100	200
一九一五	100	100	200
一九一六	100	100	200
一九一七	100	100	200
一九一八	100	100	200
一九一九	100	100	200

(Spain)

一九〇五

私は右に掲げたる三十九ヶ國の貿易統計により、世界に於ける貨物交通の大勢を概觀せんとす

說苑
世界貿易概觀

輸出入のみの金額なるか、或は貨物輸出入と貨幣地金銀輸出入とを合併したる金額なるか、に就いて何等明かに記載せられて居なかつたものもある。此等は貨物輸出入の金額のみを表はすものと認めて、其儘之を採用した。又各國の他國に對する經濟的連帶關係、即ち各國が自國の經濟的構成に就いて幾何の程度迄外國產物の輸入に缺つ所あり、之に對し自國產物を、並びに外國原料を用ゐるも自國に於いて製造加工を施したる製品を、幾何輸出し得るかの關係を知らんとするには、總貿易 (General trade) の金額によらずして、所謂特殊貿易 (Special trade) の金額によるべきであるが、「政家年鑑」に於いては、總貿易と特殊貿易とを區別して掲載したるもの甚だ少くて、多くは其何れなるかを記載し居らず、それらは總貿易額と看做し得べきものであつたから、茲にはなるべく總貿易の金額を集つむることとした。併しながら、又國によりては特殊貿易の金額だけより掲載せられ居らざるものもあつたから、それらは之を採用するの外なかつた。されば、前掲の統計表は此點に於いて決して統一を保ち得たものではない。又なるべく總貿易の金額を採用したる結果として此等の金額を世界的に通計した場合、貨物移動の實數の一部分は、該貨物が通過した國の數に従ひ、二重三重に計上せらるゝこととなるが、此等は原統計表が不十分なるが爲め、已むを得ざる所である。併し輸入品を其儘輸出すると云ふことも、其國にとりては商業上若干の利得を擧ぐる事柄であり、國民所得の一部を作出する仕事であるから、總貿易額を採用したることは、各國貿易力を比較する上に於いては却つて便宜であらう。

次に前掲の統計表によりて、各國の貿易を比較し、又は此等を通計して世界貿易の總額を知ら

んとするに就いて注意すべき事柄が二つある。其一は各國が統計期間を一にして居ないことである。日本や英吉利や其他多くの國では、曆年に従つて貿易額を計上して居るが、北米合衆國や濠大利の如きにありては、七月一日より翌年の六月三十日に至る一ケ年を以て貿易統計の一期間として居る。¹⁴⁾ 其二は貿易金額の取扱ひ方に於いて各國必ずしも同一の方法をとつて居ないことである。大抵は、輸入にありては、原產地代價に荷造費其他の費用 保険料及び輸入地までの運賃を含めたるもの (c. i. f.) を以て輸入價額とし、輸出にありては、發達港に於いて本船に積込むまでの費用を含めたる價額 (f. o. b.) を以て輸出價額として居る様であるが、之に對して著しき例外をなすものは北米合衆國の輸入價額である。此國にては原產地に於ける價額を以て輸入價額として居る。¹⁵⁾ 従つて、その輸入金額統計は他國のものより幾分少く表はるゝこととなる。

四

扱て、前掲二十九ヶ國の統計よりして世界貿易の大勢を概観するに、茲に集めたるだけのものを總計するにては、正確に言へば、未だ以て世界貿易の總額として之を取扱ふことを得ないものであるが、併し茲に漏れたるものは、世界貿易上さほど重要な關係にあるものでないから、假にその總計を以て世界貿易の總額と看做すならば、その發達狀態は次の如くである。但しその總額なるものは前に述べたるが如く、統計に用ゐられたる期間と、統計に表はされたる金額の實質とに於いて、各國の間に多少の差異ある所のものを、一列に計上したものであることを斷つて置

14) 印度と暹羅とは三月三十一日に終る一ケ年間、波斯と墨西哥とは不明

15) Bowley, An Elementary Manual of Statistics, p. 115.

かねばならぬ。

世界貿易總額表

年 次	輸 入		輸 出		合 計	
	金 額	指 数	金 額	指 数	金 額	指 数
一九〇〇	2,101,241,000	100	1,614,410,000	100	3,715,651,000	100
一九〇五	2,175,312,000	103	1,621,472,000	101	3,796,784,000	102
一九一〇	2,450,112,000	117	1,736,011,000	108	4,186,123,000	113
一九一三	2,450,112,000	117	1,736,011,000	108	4,186,123,000	113
一九一八	2,450,112,000	117	1,736,011,000	108	4,186,123,000	113

右の金額には、前掲二十九ヶ國の中で、一九〇〇年と一九〇五年とは、南亞聯邦は含まれず、一九一八年には、露西亞、葡萄牙、白耳義、波斯、獨逸、土耳其、ルーマニア、諾威、壞地利洪牙利、和蘭、ブルガリア、希臘、瑞典の十三ヶ國の統計が含まれて居ない。故に一九一八年の世界貿易總額は實際は前掲の數より幾分多いものである。併し此等の國は一九一八年には、大戰の爲めその對外貿易甚だしく阻害せられ居たるを以て、姑く此等を計算外に置くも、世界貿易額を概観するに於いて甚だしき不都合はないであらう。一九一九年の各國の貿易統計はまだ出揃つて居ないから、同年の世界貿易總額は概算だもすることは出来ない。よつて茲に同年の總額は掲載しなかつたのである。

今、前掲表によりて之を觀るに、單に金額の上のみより言へば、世界貿易は二十世紀の最初の十年間に輸入に於いて五割九歩、輸出に於いて六割一歩、輸出入合計に於いて六割の増加を示し、

大戰前年の一九一三年に至るまでには輸入は九割三步、輸出は九割、輸出入合計にて九割二歩の増加を示し、大戰最後の年たる一九一八年に至つては、輸入は十一割八歩、輸出は九割五歩、輸出入合計にて十割八歩の増加を示して居る。

金額の増加は右の如くであるが、併しかゝる金額の増加は物價の騰貴に基く所多いのであるから、上掲の増加歩合を以て眞實の貿易の増加と看做すことは出来ない。眞實の貿易の増加を知るが爲めには上述の數に多大の修正を加へねばならぬ。その修正方法としては、總輸出入貨物の中で、一定の數量に對する市價を確認し得べき數種又は數十種の特種貨物の代價を特定の年又は特定の短期間に於いて査定し、之を基礎として調査年度に於ける該貨物の代價騰落の歩合を調べ、之より推して一般の輸入貨物及び輸出貨物の、基礎年度の代價に換算したる輸出入金額を推算するのである。¹⁶⁾かくて各年度の修正せられたる輸出入金額を比較せば、大體ながら、貿易發達趨勢の近似的なる真相を知ることが出来るであらう。併し此方法は日本のみの、又は英吉利のみの貿易と云ふ風に、個別的の觀察に於いては行ひ得るが、世界貿易總額の發達狀態を觀察せんとする場合には到底之を行ふことが出来ない。よつて私は、右と同様の趣旨により、倫敦、紐育、東京に於ける物價指數によりて右の修正を施すこととし、之によりて世界貿易の發達の狀態を推知しようと思ふ。勿論、倫敦、紐育、東京と云ふ只僅かに三都市に於ける物價騰落の狀態を以て、世界物價騰落の標準とするは、決して正確なる觀察方法ではないが、併し之によりても金額より見る所の世界貿易發達の觀察に對して、不完全ながら修正をなすことが出来る。三都市に於ける物價

16) Bowley, An Elementary Manual of Statistics, pp. 117-

指數は次の如くである。

東京倫敦總育物價指數

年 次	東 京	倫 敦	紐 育	平 均
一九〇〇	100.0	100.0	103.0	100
一九〇五	116.8	117.8	108.7	108
一九一〇	140.0	110.8	118.1	118
一九一三	141.0	112.0	118.8	118
一九一五	142.0	117.1	121.1	118
一九一六	144.1	120.1	121.8	118
一九一七	145.1	120.8	121.8	118
一九一八	146.8	121.8	121.8	118
一九一九	147.8	122.1	122.1	118

一九一三年以後の倫敦及び紐育物價指數は日本銀行調査局内外物價指數對照表に掲載のものを其儘採用し、それ以前は該指數對照表手許になかりしを以て、日本銀行調査の基礎材料たる Economist's Broadstreet's とより、日本銀行の指數計算方法に従ひ換算したるものである。又下段の平均數は四捨五入法により算出した。

前掲指數により世界貿易額を修正せば次の如くなる。

世界貿易修正金額表

年 次	輸 入		輸 出		合 計	
	金 額	指數	金 額	指數	金 額	指數
一九〇〇	1,101,151	100	1,011,150	100	2,112,301	100
一九〇五	1,101,150	110	1,101,150	110	2,202,300	110
一九一〇	1,101,150	140	1,101,150	140	2,202,300	140
一九一三	1,101,150	141	1,101,150	141	2,202,300	141
一九一五	1,101,150	142	1,101,150	142	2,202,300	142
一九一六	1,101,150	144	1,101,150	144	2,202,300	144
一九一七	1,101,150	145	1,101,150	145	2,202,300	145
一九一八	1,101,150	146	1,101,150	146	2,202,300	146
一九一九	1,101,150	147	1,101,150	147	2,202,300	147

即ち、世界貿易の實質的進歩は、物價指數を以て統計金額を換算したる概略なる觀察に従へば、二十世紀の最初の十年間に輸入は三割七歩、輸出は三割九歩、輸出入合計にて三割八歩の増加を示し、大戰前年の一九一三年に至るまでには、輸入は五割四歩、輸出は五割二歩、合計にて五割三步の増加を示し、大戰最終の年たる一九一八年は、一九〇〇年に比べて、輸入に於いて二割二歩、輸出に於いて三割一步、合計にて二割六歩の減少となつて居る。若し夫れ、一九一八年を一九一三と比ぶれば、輸入は約五割、輸出は約五割四歩、合計にて約五割二歩の減少となる。

五

世界貿易の一般的狀態並びにその發達の趨勢を概観すれば右に述ぶるが如くであるが、然らばこの世界貿易を陸路によりて輸送せらるゝものと、海路によりて輸送せらるゝものとに分てば、其割合は如何になるか。普通に學者の推測する所に據れば、陸路によりて輸送せらるゝもの即ち陸上貿易は五分の一で、海路より輸送せらるゝもの即ち海上貿易は五分の四であるとのことである。¹⁷⁾勿論之に就いては何等正確なる統計の利用し得べきものはないのであるが、大戰中、英吉利に於いて、該國海運の維持に必要な手段を講究する目的を以て作られたる委員會の調査したる所によれば、世界貿易の七九%は海上貿易で、二一%が陸上貿易であると云ふ結果を得た。即ち從來一般に推測せられたる所を裏書し得た譯である。該調査の要領を掲ぐれば次の如くである。¹⁸⁾

- 17) Barm, Deutschlands Stellung im Welthandel und im Weltverkehr, S. 98; Halle, Volks- und See-Wirtschaft, Bd. I., S. 156.
18) Report of the Committee appointed to advise as to the measures requisite for the maintenance of the British Mercantile Marine, 1917, Vol. I. p. 3.

一九二一年に於ける海上貿易と陸上貿易

	海上貿易 千噸	陸上貿易 千噸	合 計 千噸
英吉利本國	1,124,000	1,124,000	2,248,000
英吉利屬領	256,000	100,000	356,000
英帝國合計	1,380,000	1,224,000	2,604,000
聯合側諸國	2,410,000	1,400,000	3,810,000
中立諸國	1,410,000	1,400,000	2,810,000
敵國側諸國	2,410,000	1,400,000	3,810,000
總 計	2,410,000	1,400,000	3,810,000

世界貿易の五分の四が海上貿易であるとすれば、貿易の増進するに伴つて船舶の増加を要するは言ふ迄もない。今試みに、世界船舶噸數の増加と、前掲世界貿易(修正金額)の發達とを比較すれば、其狀態は次の如くである。

世界船腹の増加と貿易の發達との比較

年 次	汽船噸數 千噸	帆船噸數 千噸	兩者合計噸數 千噸	兩者合計指數	貿易指數
一九〇〇	21,767	2,621	24,388	100	100
一九〇五	25,233	2,034	27,267	112	112
一九一〇	34,210	2,632	36,842	151	136
一九一三	41,009	2,822	43,831	180	155
一九一八	50,667	1	50,668	208	175
一九一九	50,667	3,060	53,727	220	175

右の船舶統計はロイド船級組合に登録せられたる船舶の噸數であつて、汽船にありては總噸數一〇〇噸以上のもの、帆船にありては純噸數一〇〇噸以上のものである。又一九一八年の船舶統計は發表せられざりしが故に、假に一九一九年の船舶統計を以て一九一八年の貿易と對比したのである。

即ち之によれば、軍用として非常に多くの船舶を吸取せられたる戦時中は姑く除き、戦前に於いては、貿易の發達と船舶噸數の増加とは殆ど併行的發達を示して居る。只、船舶噸數の増加が貿易の發達よりも稍々遞加的現象を呈して居るのは、貿易が發展すると共に貨物の到達地點が次第に遠くなり、貿易量に比して船舶噸數を要することが増加したるによるのである。

六

次に前掲の世界貿易統計を見るに、輸入金額は常に輸出金額に超過して居る。之は、前にも述べたるが如く、輸出金額は大抵輸出港に於いて本船に積込むまでに要する費用のみを含むものであるが、輸入金額は、更に之に保険料、運賃等到達港に到るまでの費用を含むからである。故に前掲輸入金額と輸出金額との差額は、即ち貨物輸出に就いて要する種々なる勞務に對する費用であつて、換言すれば貨物輸出に附隨する所の無形輸出の代價である。而して此場合の無形輸出の代價なるものは、大體之を、世界貿易に要したる運賃と保険料とであると見ることが出来る。而して其中の大部分を占むるものは實に運賃である。然らばこの無形輸出の額は幾何であつて、貨物輸出金額に對し如何なる割合を占むものであるか。ボーレイは一九〇四年の世界貿易統計より計算して、この無形輸出の額が貨物輸出金額に對する割合は九歩であると算出して居る。而してこの割合を算出するに當つて $\frac{\text{世界貿易金額} \times (1 + \frac{x}{100})}{\text{世界貿易金額}} = \frac{\text{世界貿易金額} \times (1 + \frac{x}{100})}{\text{世界貿易金額}}$ と云ふ式を用ゐて居る。xがその割合である。之は前にも述べたるが如く、合衆國の貿易統計に掲げたる輸入

金額は、他國と異り、原産地に於ける價額であるからである。據つて私も此算法に従ひ、前掲の世界貿易統計を基礎として無形輸出の額を算出するに次の如き結果を得た。

貨物輸出に附随する無形輸出の金額

	一九〇〇年	一九〇五年	一九一〇年	一九一三年	一九一八年
無形輸出金額	101	107	121	147	163
貨物輸出金額に對する割合	10	11	9	11	13

茲に注意すべきことは、右の金額は無形輸出金額の全部ではなくて、只貨物輸出に關聯するものばかりである。この外に無形輸出金額としては、國際資金貸借に關する銀行の報酬、生命火災保險の保險料、漫遊者よりの收得、出稼人の送金等がある。又右の無形輸出金額は必ずしも貨物輸出國の收得となるにあらずして、國際的の運輸事業や海上保險、陸運保險等に活動せる國民の所得となるものである。

七

世界貿易の約五分の四が海上貿易なることは前述の如くであるが、然らばこの海上貿易を航路系統により分類觀察すれば如何なる状態にあるか。此點に就いては從來正確なる調査を見なかつた様であるが、私が本稿を起草しつゝある間に、偶々日本郵船會社に於いては非常な手數を掛けてこの航路系統による世界貿易の調査を完成せられ、未定稿として同社内部に於いて發表せられた。それは私の前に作成した統計の材料とは別の材料を用ゐたもので、主として各關係國の統計書

に據り、一九一三年と一九一九年との兩年を比較したものである。但し一九一九年の統計が利用し得られざる場合には一九一八年のものが補充的に用ゐられて居る。今、同社許諾の下に茲に其概要を引用すれば次の如くである。

(一) 地中海印度洋支那海方面貿易

年次	東航	西航	合計	世界海上貿易に對する百分率
歐洲對極東	1913 55,779 噸	1913 20,041 噸	1913 75,820 噸	3.0%
歐洲對印度・南洋	1913 10,355 噸	1913 12,121 噸	1913 22,476 噸	2.7%
歐洲對濠洲	1913 10,355 噸	1913 10,355 噸	1913 20,710 噸	0.9%
歐洲對澳洲	1913 5,000 噸	1913 5,000 噸	1913 10,000 噸	0.4%
印度洋沿岸相互	1913 1,000 噸	1913 1,000 噸	1913 2,000 噸	0.3%
右合計	1913 72,489 噸	1913 49,517 噸	1913 122,006 噸	4.9%

(二) 北太平洋橫斷貿易

年次	東航	西航	合計	世界海上貿易に對する百分率
極東對北米	1913 28,881 噸	1913 10,000 噸	1913 38,881 噸	1.6%
極東對南米・西岸	1913 11,000 噸	1913 1,000 噸	1913 12,000 噸	0.5%
極東對南米・西岸	1913 11,000 噸	1913 1,000 噸	1913 12,000 噸	0.5%
南洋・印度對北米及	1913 11,000 噸	1913 1,000 噸	1913 12,000 噸	0.5%
南米・西岸	1913 11,000 噸	1913 1,000 噸	1913 12,000 噸	0.5%
右合計	1913 61,881 噸	1913 23,000 噸	1913 84,881 噸	3.5%

(三) 南太平洋橫斷貿易

年次	東航	西航	合計	世界海上貿易に對する百分率
濠洲對南米東岸及び西岸	三、九七二 一、五八六	二、四二六 四、七六八	一、六五九 五、八六六	〇・五五

(四) 太平洋西岸地方貿易

年次	南航	北航	合計	世界海上貿易に對する百分率
極東對印度	四、七七一 二、二一五	三、八〇一 四、七三七	三、八〇一 四、七三八	一・〇三
極東對南洋	八、七三七 二、九七三	一、五〇〇 五、九七三	二、四七三 八、四七三	〇・七六
極東對濠洲	一、〇〇四 四、二七三	一、八四一 七、七七一	二、八四六 二、八四一	〇・六
極東各國間	九、九一三	九、九一三	二、八四一	〇・三
濠洲・新西蘭・フイジー間貿易	九、九一三	九、九一三	一〇、〇〇〇	〇・三
右合計	九、九一三	九、九一三	二七、〇〇七	五・五

(五) 太平洋東岸地方貿易

年次	合計	世界海上貿易に對する百分率
北米相互・南米相互	二、九一三	〇・六
北米對南米合計	二、九一三	〇・六

六北大西洋橫斷貿易

年次	西航	東航	合計	世界海上貿易に對する百分率
英吉利對北米	100,111 千磅	18,457 千磅	118,568 千磅	9.25
北歐對北米	7,121 千磅	2,049 千磅	9,170 千磅	3.55
地中海對北米	10,291 千磅	5,684 千磅	15,975 千磅	3.55
英吉利對中米、西印度、カリブ地方	11,856 千磅	10,473 千磅	22,329 千磅	3.45
歐洲大陸對中米、西印度、カリブ地方	10,983 千磅	4,127 千磅	15,110 千磅	3.75
印度對北米	27,000 千磅	21,000 千磅	48,000 千磅	1.55
印度對北米	25,000 千磅	22,000 千磅	47,000 千磅	0.55
右合計	218,955 千磅	80,681 千磅	299,636 千磅	33.05
戰前	175,668 千磅	71,777 千磅	247,445 千磅	33.05
戰後	218,955 千磅	80,681 千磅	299,636 千磅	33.05

七南大西洋橫斷貿易

年次	西航	東航	合計	世界海上貿易に對する百分率
英吉利、北歐、地中海沿岸、阿弗利加對南北米戰前	110,109 千磅	1,541 千磅	111,650 千磅	9.14
戰後	110,109 千磅	1,541 千磅	111,650 千磅	5.00

八大西洋西岸地方貿易

年次	南航	北航	合計	世界海上貿易に對する百分率
北米對中米、西印度、カリブ地方	101,831 千磅	13,311 千磅	115,142 千磅	3.25
戰前	101,831 千磅	13,311 千磅	115,142 千磅	4.05
戰後	101,831 千磅	13,311 千磅	115,142 千磅	4.05

說苑 世界貿易概觀

右以外の西岸地方貿易

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

右 合 計

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

(九) 大西洋東岸地方貿易

年 次

南 航

北 航

合 計

世界海上貿易に
對する百分率

歐洲對阿弗利加

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

(一〇) 歐洲各地相互間貿易

年 次

東 航

西 航

合 計

世界海上貿易に
對する百分率

英吉利對北歐

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

英吉利對地中海沿岸

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

北歐對地中海沿岸

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

北歐相互間

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

地中海沿岸相互間

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

右 合 計

一九一三
一九一三

航 航

二七、七六八
二四、九四三

五、七
九、〇

之によりて海上航路系統の上より世界貨物移動の狀態を觀察すれば、歐洲各地相互間を聯絡する航路は、世界貿易の通路として最大の輸送量を占め、戦前は世界海上貿易の三割四歩強、戦後

は二割九步弱である。之に次ぎては、北大西洋横斷航路であつて、戦前は二割二步強、戦後は二割七步強、以下、歐洲印度南洋航路（戦前一割弱、戦後六步強）南大西洋航路（戦前九步強、戦後五步強）大西洋西岸航路（戦前六步弱、戦後九步強）歐洲濠洲航路（戦前戦後共四步強）北太平洋航路（戦前三步強、戦後六步弱）歐洲極東航路（戦前三步強、戦後二步強）印度洋航路（戦前戦後共二步弱）等である。

*

上に述べたる所を以て、私は世界に於ける貨物交通の一般的状態を略述し了へたるにより、以下更に稿を改めて、各國がこの世界貨物交通の全量に對して如何なる割合を占めつゝあるか、並びに各國の貿易増進歩合は逐年如何なる發達を示しつゝあるかを概観するであらう。

（九・一二・三）